

ISSN 0910-2396

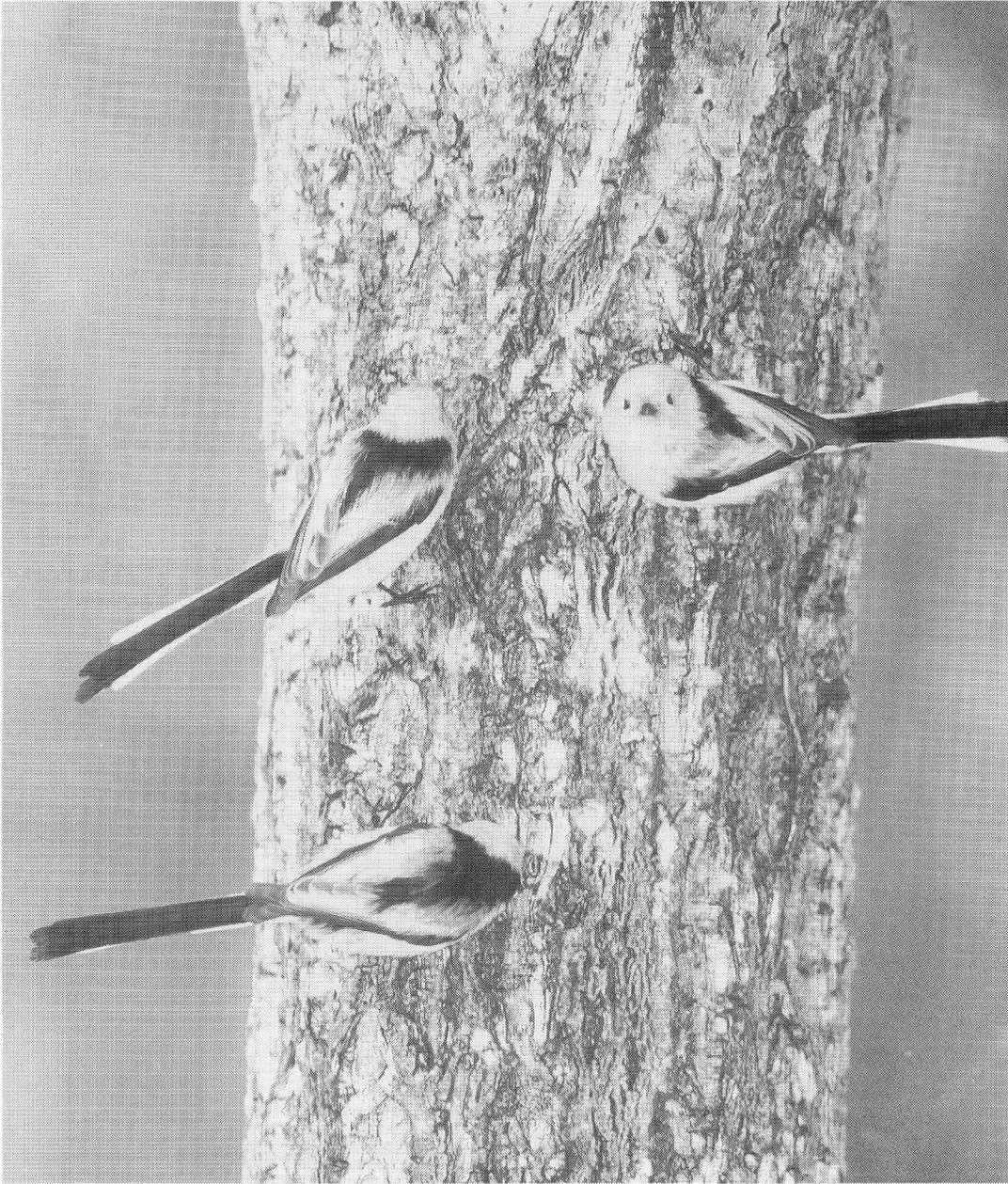
野鳥だより

—北海道—

第 95 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 6 年 3 月 21 日



シマエナガ 平成6年2月11日 松野有秀撮影



もくじ

私の探鳥地 (25).....	土田光子.....	2
根釧原野の野鳥.....	金澤裕司.....	3
野鳥リスト.....		5
石狩川水系 生振・茨戸川流域の野鳥(2).....	新城久・泉勝統.....	8
探鳥会案内.....		9
探鳥会報告.....		11
鳥民便り.....		12

私の探鳥地 (25)

我がフィールドにて

土田光子

今年の夏も我がフィールドー十勝川に、太い金ぶちメガネをかけてコチドリ2羽が飛来していました。小粒な体で川原の上をチドリ足で忙しく動き廻っています。なにやら日本人の動きに似て苦笑します。時々版画のような顔で、ジーンと瞑(迷)想にふけっている?と「禅」をやっているようです。いいえ、考えすぎです。石ころに似せて忍者のつもりかな、くやしけれど私は老眼、近眼なので石ころにしか見えません。でも40倍の光科学機器の助けを借りて、パッチリ捉えることができました。北帰行をさぼったのかな、十勝川の中州には緑の葉をつけた流木もあって、かっこうの遊び場のようです。イソシギもセグロセキレイも同じ中州に居ます。セグロセキレイが餌を運んでいます。

おやっ!コチドリのすきとおった「ピューイピューイ」の声とは違う、にごって少しふとめで「ビイビイビー」と声がありました。プロミナーが中州に降りた鳥を捉えました。幸にコチドリと並んでいます。目はコチドリのような鮮やかな金ぶちは見られない。版画のような顔は非常に似ているが嘴が少し太く長い。体も少し大きい。数年前、愛知県の汐川で珍鳥オオメダイチドリと共にシギ、チドリ類の識別を記憶したつもりであったのに、見事に忘れていた。一昨日、佐々木美恵子さんからイカルチドリらしい...と電話があったので、この日は図鑑を持参した。やっと、イカルチドリと確認しました。1羽と思って観てましたら4羽も居ます。ええっ!なんとその1羽の胸の前に小さな1羽の雛が寄り添っているのです。顔はまだぼやけていますが淡い茶色の毛に包まれて、しっかり立って、私の方を見つめています。愛しいです。我がフィールドー十勝川で新しい命を育てているのです。近くで西2条大橋の大工事をやっているのにもかかわらず、感動でした。雛の居る所で長居は禁物です。無事を

祈りながら帰途につく私の足も喜びでチドリ足です。珍しくノゴマの雄とホオアカが美しい声で祝ってくれました。カッコウ、ウグイス、オオヨシキリ、コヨシキリが賑やかに大合唱です。オオジシギが、バリトンで参加です。イワツバメが白い腰をひるがえし、ショウドウツバメも入って舞っています。堤防の斜面のイタドリの葉がげで、ノビタキ、ヒバリが雛を育てています。1993年6月1日早朝の探鳥でした。

後日、音更町在住の島田氏も、音更側からイカルチドリ2羽の雛を観察されたとのことです。帯広での繁殖記録は2例目でしょうか?この原稿を書き終えたら、釧路でのラムサール会議の最終日の内容等がテレビで報じられていました。

(〒080) 帯広市西11北5

「我がフィールドにて」は、帯広在住の会員、土田光子さんが、93年7月の「十勝野鳥だより」に載せられたものです。

夏鳥達が繁殖に戻ってくるのも間近です。

鳥の営巣場所に近づき過ぎたり、或は、生まれた雛が可愛いと、長時間巣の近くにいる、親鳥が雛に餌を与えられなかったり、人がつけた足跡のため、ヘビやカラスに巣の在り処を知らせる結果になったりもします。

以前に比べ、鳥が減っているといわれる中で、悪意でないにしても、巣に近づき過ぎるなど、人間の側が鳥を追い込んでいることも多いのではないのでしょうか。

文中にあるように雛のいる所で、長居は禁物という心遣いが嬉しく、ご本人の了解を得て、あえて転載の許しを戴きました。

昨秋に会員の方から投稿されたものです。一読させて戴き感動しました。(担当 泉)

根釧原野の野鳥 金澤裕司

根釧原野は北海道の東部に広がる起伏の緩やかな丘陵状の台地です。知床半島から続く武佐岳、西別岳などの山系と、弟子屈から厚岸まで続く釧路川左岸の丘陵とに挟まれた広い台地は、准平原と呼んでも良いと思われます。北東側には、知床半島から続く山々がそびており、根釧原野を流れるすべての川の水源になっています。

気候の区分は、どちらかと言えば太平洋側に属していますが、年間の降水量が少なく、特に冬季間の前半は非常に降水量の少ない期間にあたります。したがって、土壌の凍結深度は深くまで達し、そのため早春の雪解けがどこよりも遅いのが特徴です。地下の凍土の状態は、もうツンドラの一步手前と言ってもおおげさではありません。したがって、植物の生育条件は厳しく、大きな樹木は育ちにくいようです。これは、一度破壊されると復元力の乏しい、デリケートな自然がそこに存在していることを意味します。

発達した樹林と緩やかな丘陵が続き、その間のあちらこちらに湿原が点在するその景観は、北緯55度から60度近辺のスコットランドによく似ている、といわれます。

しかし、近年の大規模な草地開発事業は、根釧原野の自然を大きく変化させ、もはや復元できないレベルにまで達している状況です。また、河畔林の喪失と畜産経営規模の「終わり無き拡大」のために河川中下流部の汚濁も問題になってきています。にもかかわらず、湿原を乾燥化させ、あまり質の良くない草地を大規模に造成するという事業は、今もって止まることなく進められており、シマアオジが繁殖していた小さな湿原が今年もまた、いくつか失われていきました。

このような危機をはらんでいる根釧原野ではありませんが、そのかつてあったであろう豊かな自然の名残は、現在でも伺い知ることができます。そして、それを出来る限り記録に残しておくことで、この原野で生活している世界的な希少種の生息域保全のために、いくらかでも役に立てば、それに優る幸いはありません。

この根釧原野に住むようになって、3年になります。この間に観察できた野鳥をリストにまとめてみました。この記録は、別海町から標津町までの27キロの通勤の途中に尾岱沼や野付半島を中心に観察されたものと、バラサン沼、走古丹西別川流域、自宅のある別海町美原で記録したものに、一部風蓮湖、春国岱における記録を付け加えたものです。

根釧原野には、海岸、入り江、湖沼、湿地、草原、森

林と実に多様な環境があります。そのため、観察できる野鳥の種類は非常に多く、わずか3年間で180種余りに達しています。これは、根釧原野が鳥類の生息にとって重要な場所であることをあらためて証明するものです。

この土地を繁殖地にしている種には、アカアシギ、オオアシギ、アオサギ、タンチョウなどが有名です。わが家の近くでは、ノゴマ、エゾセンニュウ、ウグイス、エゾムシクイ、アオジ、シマアオジ、ベニマシコ、などが繁殖しています。また、ユキホオジロやベニヒワ、シロフクロウ、ケアシノスリなどは、このツンドラに似た土地を気に入っているらしく、越冬地として長く留まっています。さらに、日本列島に渡って来るハクチョウ類を始めとするガンカモ類にとっては、手ごろな休憩場所になるらしく時によっては、5000羽を越すオオハクチョウの群れが翼を休めている光景を見ることができます。3月末から4月にかけての風蓮湖などでは、大小様々の鳥が思い思いのコースで飛び交い、国際空港のようににぎわいになります。

根釧原野で観察される野鳥の種類は、実際にはもっと多いのは確かです。とりわけシギ・チドリ類については、小さな沼、湖が多いこと、海岸線が長いわりに観察時間を充分にとれないこと、などの理由で実際に飛来している数や種類よりも過小な記録になっていると考えられます。また、季節による消長の把握もまだまだ充分とは言えません。

さらに観察を継続することでより、正確な記録を蓄積することができるものと思われます。自分としては、一応の中間報告のつもりでおりますので、今後、各方面の諸先輩からのご指摘、ご指導をいただければ幸いです。

おもな観察場所

- | | |
|-----------------|------------------|
| ①標津海岸 | 海鳥(クロガモなど) |
| ②野付半島 | シギ・チドリ類、水鳥、草原性の鳥 |
| ③尾岱沼野付湾 | シギ・チドリ類、水鳥、ワシ類 |
| ④尾岱沼白鳥岱 | 水鳥、ワシ類 |
| ⑤春別川河口 | 水鳥 |
| ⑥床丹川河口 | 水鳥、ワシ類 |
| ⑦バラサン沼 | 湿原の鳥(タンチョウなど) |
| ⑧兼金沼 | ヒシクイが多い |
| ⑨走古丹 | 水鳥、外洋性の海鳥 |
| ⑩西別川河口 | 水鳥、草原性の鳥、ワシタカ類 |
| ⑪床丹川水系チエブナイ川源頭部 | 森林性の鳥 |
- (086-02 別海町美原37-7)



根釧原野で確認された野鳥
(1991年4月～1993年11月 野帳写し)

目	科	No.	種名	観 察 月												備 考		
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	O	N	D			
アビ目	アビ科	1	アビ															
		2	オオアビ															
カイツブリ目	カイツブリ科	3	カイツブリ															
		4	ミミカイツブリ															
		5	アサギカイツブリ															
ペリカン目	ウ科	6	ウミウ															
		7	ヒメウ															
		8	オオウミウ	○														走古丹
コウノトリ目	サギ科	9	アマキ														バラサン沼	
		10	オオサギ															バラサン沼
		11	コサギ															バラサン沼
		13	アサギ															
	コウノトリ科	14	コウノトリ					○									風連川河口	
ガンカモ目	ガンカモ科	15	コウガモ															
		16	マガモ															
		17	ヒシクイ															
		18	オオハクチョウ						○	○	○							
		19	コウハクチョウ															
		20	マガモ															
		21	オオマガモ															
		22	コマガモ															
		23	ヨシガモ															
		24	オオヨシガモ															
		25	ヒトリガモ															
		26	アメリカヒトリ		○		○											尾岱沼
		27	オオマガモ															
		28	シマアジ															
		29	ハツビ															
		30	キンクロハジロ															
		31	スズガモ															
		32	クロガモ															
		33	ビロートキンクロ															
		34	シロガモ															
35	コサギ																	
36	オオシロガモ																	
37	ヒメハジロ	○	○	○											○	走古丹		
38	ミコアイチ																	
39	ウミアイチ																	
40	オオアイチ																	
ワシタカ目	ワシタカ科	41	ミサゴ															
		42	トビ															
		43	オシロイ															
		44	オオウソ															
		45	オオウソ															
		46	ハイタカ															
		47	オオタカ															
		48	ノスリ															
		49	ハイイロチュウヒ															
		50	チュウヒ															
	ハヤブサ科	51	シロハヤブ														走古丹	
52		ハヤブ																
53		オオハヤブ																
54		コチョウゲンボウ																
55		オオコチョウゲンボウ																
キジ目	ライチョウ科	56	ライチョウ															
ツル目	ツル科	57	ツル															
	クイナ科	58	クイナ															
		59	ハシ															
		60	オオハシ															
チドリ目	タマシギ科	61	タマシギ															
	ミヤコドリ科	62	ミヤコドリ					○								春田沼		
	チドリ科	63	コチドリ															
		64	シロチドリ															
		65	オオシロチドリ															
		66	オオオシロチドリ															

目	科	No.	種名	観 察 月												備 考		
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
シギ目 (つづき)	チドリ科 (つづき)	67	ムクロ															野付半島で繁殖
		68	タイヤン															
	シギ科	69	キョウゾウシギ															
			70	トウネン														
			71	ウズラシギ														
			72	ハマシギ														
			73	オハシギ														
			74	ミユビシギ														
			75	キリアイ														
			76	カウシギ														
			77	アオアシシギ														
			78	コキアシシギ														
			79	アオアシシギ														
			80	クサシギ														
			81	キアシシギ														
			82	イソシギ														
			83	ソリハシシギ														
			84	オウロシギ														
			85	オウソリハシシギ														
			86	オウソリハシシギ														
			87	オウソリハシシギ														
			88	チュウシャクシギ														
			89	ヤマシギ														
			90	オウソシギ														
		ヒレアシシギ科	91	アオエリヒレアシシギ														
		カモメ科	92	ウミカモメ														
			93	セウロカモメ														
			94	オウソカモメ														
			95	ウミカモメ														
			96	シロカモメ														
		97	カモメ															
		98	ウミネコ															
		99	ミユビカモメ															
		100	アジ															
	ウミスズメ科	101	ウミスズメ		○													
		102	ウミスズメ															
		103	ウミスズメ															
		104	ウミスズメ															
ハト目	ハト科	105	ハト															
		106	ハト															
ホトトギス目	ホトトギス科	107	ホトトギス															
		108	ホトトギス															
フクロウ目	フクロウ科	109	フクロウ		○										○	○		
		110	フクロウ															
		111	フクロウ															
		112	フクロウ															
		113	フクロウ															
ヨタカ目	ヨタカ科	114	ヨタカ															
アマツバメ目	アマツバメ科	115	アマツバメ															
		116	アマツバメ															
ブッポウソウ目	ブッポウソウ科	117	ブッポウソウ															
		118	ブッポウソウ															
キツツキ目	キツツキ科	119	キツツキ															
		120	キツツキ															
		121	キツツキ															
		122	キツツキ															
		123	キツツキ															
スズメ目	ヒバリ科	124	ヒバリ															
	ツバメ科	125	ツバメ															
		126	ツバメ															
	セキレイ科	127	セキレイ															
		128	セキレイ															
		129	セキレイ															
	ヒヨドリ科	130	ヒヨドリ															
	モズ科	131	モズ															
		132	モズ															

目	科	No.	種名	観察月												備考		
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	O	N	D			
スズメ(見づき)	モズ科 つづき	133	材モズ															
	レンジャク科	134	キリンガヤク	////	////	////												
	カワガラス科	135	初ガラス															
	ミソサザイ科	136	ミソサザイ															
	ヒタキ科	137	ノゴマ															
	ツグミ亜科	138	コト															
		139	胸ビタキ															
		140	ヒビタキ															
		141	トラクグミ															
		142	クロググミ															
		143	アハハ															
		144	クグミ															
		145	ヤブチ															
		146	クグイ															
		147	エドセンユウ															
	148	シマセンユウ																
	149	マキノセンユウ																
	150	ゴヨシキリ																
	151	エドムシクイ																
	152	センバムシクイ																
	ヒタキ亜科	153	キクイタキ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////
		154	ヒビタキ															
		155	オオヒタキ															
		156	エドヒタキ															
		157	コサビヒタキ															
		158	エナガ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////
	シジュウカラ科	159	ハツトビ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////
		160	コガラ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////
		161	ヒガラ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////
162		ツグユウ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	
ゴジュウカラ科	163	ゴジュウカラ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////		
キバシリ科	164	キバシリ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////		
ホオジロ科	165	ホオジロ																
	166	ホオジロ																
	167	ホオジロ																
	168	ツマアジ																
	169	アホジロ																
	170	ホオジロ																
	171	キキホオジロ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	
アトリ科	172	アトリ																
	173	ホウライ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	
	174	ヒバリ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	
	175	ベニヒバリ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	
	176	ハキマシコ																
	177	キンチクマシコ																
	178	イサギ																
	179	ベニマシコ																
	180	ウリ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	
	181	イサギ																
	182	イサギ																
	ハタオリドリ科	183	ニューフェイス															
184		スズメ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	
ムクドリ科	185	ムクドリ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////		
カラス科	186	カラス	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	
	187	カラス																
	188	カラス	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	
	189	ハツトビ	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	////	

凡例

- 普通
- やや稀
- 稀
- 迷行と思われる

石狩川水系

生振・茨戸川流域の野鳥 (2)

泉 ^{カツツガ}勝統・新城 久

1 はじめに

1988年以来、野鳥観察の「ホームグラウンド」として、上記の地域を歩き廻り、記録をつけている。1992年3月までのものは、野鳥だより87号(H4. 3. 31)にリストアップして発表した。取急いでの事でもあり、年月日などに誤りがあるので一部訂正し92~95年3月まで新しく観察した種を追加した。

2 生振地区の野鳥

1990年11月5日に、生振を「茨戸川堤防周辺の」が開通した。その頃から茨戸川堤防周辺の「草地の鳥」が目立って減少し繁殖例も激減した。さらに生振の荒無地が材料置場などとして転用されたり、防風林の枯木整理などが行われ、「森の鳥・草地の野鳥」も漸減した。

従って、生振地区でのウグイス・アカハラ・クロツグミ・キビタキ・エゾセンニュウ等の鳴声も少くなり、少しさみしい感じがするこの頃だ。

3 防風林のクマガラ

1992年12月に尾敷林で^{ネグ}鳩穴を見付けてから、ここ2年余それらの観察に注意をはらっている。この時の鳥は雌で、「ケロコ」と名付けて追跡調査してきた。93年3月15日に、筋違林で♂と出会ってから姿が見えなくなった。

94年1月30日に、筋違林で「ケロコ」に再び出会う。94年11月27日に同林でクマガラ雌に出会ったが、ケロコかどうか判らない。95年1月24日に頭部紅斑の違いから別の鳥であるとは確認できた。2月20日に写真撮影を終る。3月15日以降また姿が見えない。



クマガラ 防風林 94. 2. 20

4 オオホシハジロの越冬

94年にこの種を初認して以来、94年3月現在まで雌鳥の越冬は6年に及んでいる。カモ類は続けて越冬する例

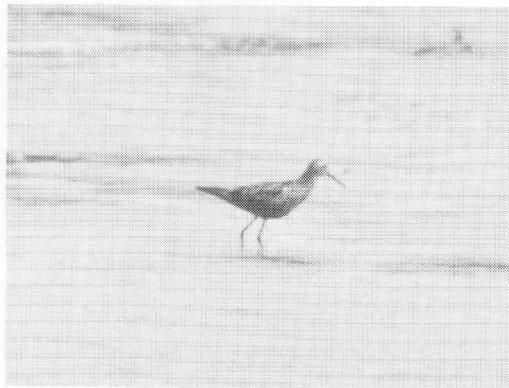
が多いといわれているが、また本秋も飛来するだろうか。

- 1988 11/9(♂)初認 12/15(♂♀)を確認
89 3/22(♂♀)終認
- 1989 10/29(♀)を初認 90 3/8(♀)終認
- 1990 10/25(♀)を初認 91 3/14(♀)終認
- 1991 11/17・19 (♂♀)初認 3/22(♂♀)終認
- 1992 11/12(♀)初認 93 3/18(♀)終認
- 1993 11/23(♀)初認 94 3/?(♀)終認

5 生振湿地のコサギとコウノトリ

拓北・生振湿地は、90年頃から湿生植物も茂り、シギ類も少しづつ入って来るようになった。そこで、93年は、ここを重点として観察することにした。5月1日にはアオサギ(4)が入り、それと一緒にダイサギが4羽入った。小型のサギも1羽いる。16日にコサギと確認、撮影する。5月17日石狩川上流に向って大型の白い鳥類。もしやコウノトリでは……と。28日確認。19日に撮影を了える。矢張り「無標識のコウノトリ」だ。6月17日まで観察できた。6月18日は生憎「強風注意報」が発令されていた。強い風にアオサギは押しもどされて飛べない。コウノトリの姿は見えなかった。夕方、円山動物園の向井獣医より電話があった。女性の方よりの連絡があり「札幌大橋の近くで、コウノトリが高圧線に触れて落ちたようだ。天然記念物なので放って置けぬ、調査して貰えないか」……と。それから10日間付近から新石狩大橋までの間を調べ廻った。永島夫人・草野氏などの応援をお願いしたが、それらしい痕跡は何も残ってなかった。どこかで元気に暮しているのであろうか。

6 生振湿地のアシナガシギ



アシナガシギ 生振湿地 93. 7. 25

この湿地での観察は、春から始まって夏も続いた。7月7日、今迄一度も見ることがないシギが1羽、岸の水草の茂みからチョコチョコ出てくる。毎日観察しているうちに、段々と全身が黒っぽくなっていく。18日になって腹に鮮明な黒色の横斑が確認できた。22日には顔面の目尻より後に赤色部を確認。脚がやゝ長く深味の所にも入って行く。24日に羽田さんに識別して貰う。ようやく、本道で最初だろうというアシナガシギだった。26日から見えなくなったが、8月1日にはもどっていた。8月2日以後全く姿が見られなくなった。珍らしい水鳥をゆっ

くり観察でき、本当に嬉しい思いだった。たゞ7月下旬から埋立工事は始まり、失望した。

……生振湿地では、春から秋まで、多くのシギ類を観察できた。以前から見られた14種に16種が加わり、その他セイタカシギ・クイナ・オオバンなども観察できた。

別表に、それらを記載しておく。

(002) 札幌市北区篠路2-3-11-1(泉)

(001) 同 上 北28西14-3-40(新城)

※ 別表は10頁にあります。

探鳥会案内

【野幌森林公園】平成6年4月17日(日)5月8日(日)
野鳥の観察を始める絶好の時期です。約6Kの道程を昼食を挟んでゆっくり観察しながら歩きます。ウグイス、アオジの初鳴き、オオルリ、キビタキ、クロツグミ等の囀り。アカゲラ、ヤマゲラ等のドラミングや選が良ければオンドリに出会える楽しみもあります。

集合=9時大沢口駐車場入口

交通=新さっぽろから夕鉄バス(文京台線)大沢公園入口下車徒歩5分

【宮島沼探鳥会】平成6年4月24日(日)

本州各地で越冬した全てのマガンがこの沼に集結する様相は壮観です。自然保護と農作物被害と言う問題をも考えながら観察して見ては如何でしょう。

集合=宮島沼畔大富会館前午前10時 午前中解散予定

【千歳川周辺一泊早朝探鳥会】

平成6年5月14日~15日(日)

支笏湖畔の温泉で鳥仲間との語りも楽しみです。15日は早朝4時探鳥に出掛けます。溪流、山野、草原と多様な種類に出会える楽しさが待っています。ヤマセミ、カワセミ、アカショウビンとの出会いが期待されます。

日時=平成6年5月14日(土)19時から交流会

15日(日)4時から探鳥開始、午前中解散予定

場所=「支笏湖ユースホステル」

千歳市支笏湖温泉番外地 ☎0123-25-2311

会費=3500円程度 宿泊料(夕食付)・朝食持参

集合=19時支笏湖ユースホステル又は18時JR千歳駅

待合室(マイクロバスが迎えに来ます。)

申込=4月と5月の野幌探鳥会の時、電話の場合は

5月13日迄に

【鶴川探鳥会】平成6年5月22日(日)

北への旅の途中立ち寄るシギチを観察します。チュウシャクシギ・キョウジョシギ等の他、思いがけない出会いがあるかも知れません。長靴が無難です。

9時30分JR鶴川駅前集合

【平和の滝夜の探鳥会】平成6年6月4日(土)

更けゆく夜の森からヨタカ、コノハズクの鳴き声が聞こえて来ます。夜空にヤマシギ、ヨタカが飛び交う夜の探鳥です。冷えますので温かい服装で参加しましょう。

集合=18時30分平和の滝駐車場

交通=地下鉄琴似駅より市営バス(西42西野平和線)

平和の滝入口(終点)下車徒歩20分

【植苗ウトナイ】平成6年6月12日(日)

草原までの林地ではホオジロ、キビタキ、センダイムシクイ等、ウトナイ湖畔の草原ではシマアオジ、コヨシキリ、ノビタキ等、湖面にコブハクチョウの雛を見ることも出来ます。ノゴマが見られると幸運ですね。

集合=9時10分 JR植苗駅前

【東米里】平成6年6月19日(日)

土地の利用が進み残された僅かな空地にノビタキ、アカモズ、オオジシギ、カッコウ等を見ることが出来る貴重な場所です。コウライキジが見られるといいのですが。

集合=8時30分東米里小学校正門前

交通=地下鉄菊水駅より市営バス(白7米里線)東米里小学校前下車

【福移】平成6年7月3日(日)

珍しくウズラが観察される探鳥地です。モズ、コヨシキリ、ノビタキ、オオジュリン、ベニマシコ等の他、水辺ではイソシギ、カワセミ、アオサギ等、対岸にはショウドウツバメのコロニーがあります。

集合=8時40分市営バス福移入口停留所横

交通=地下鉄東豊線環状通東駅より市営バス北札幌線福移入口下車

野幌森林公園を歩きましょう。

平成6年4月10日(日) 5月29日(日)

6月26日(日) 7月10日(日)

集合=9時、大沢口駐車場入口

☆いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。

☆交通機関を利用される方は、各自でお確かめ下さい。

☆昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参下さい。

☆探鳥会の問い合わせは(011)771-7866 矢野玲子宅

生振・茨戸川流域の野鳥(2) (92.4~94.2)

番号	種名	観察地と観察年月日	繁殖
2	カンムリカイツブリ	茨戸川 93.1.20~3.19 (越冬)	
10	コウノトリ	生振湿地 93.5.17~6.13 (無標識の鳥)	
29	オオホシハジロ	茨戸川 88~91. 92~94 (毎年越冬)	
61	エリマキシギ	生振湿地 93.8.25 (幼鳥1) 8.28 (♂♀)	
86	クマガラ	生振 92.11.21~93.3.30 (♀) 93.11.7~94.3.27 (♀)	
162	アマサギ	石狩川左岸草地 93.6.18~20 (2)	
163	コサギ	生振湿地 93.5.4~5.24 (1)	
164	ツミ	生振防風林 93.6.8 (♀1)	
165	バン	トンネウス沼 93.5.29 (1) (※1) 9.13 (3)	
166	オオバン	茨戸川 93.11.21 (1)	
167	シロチドリ	生振湿地 93.5.15 (1)	
168	ムナグロ	同上 93.8.28 (4)	
169	オジロトウネン	〃 〃 93.8.27 (※2) 93.9.12 (2)	
170	ヒバリシギ	〃 〃 93.7.19 (2)~9.12 (8)	
171	アメリカウズラシギ	〃 〃 93.7.19 (2)~7.22 (1)	
172	ウズラシギ	〃 〃 93.7.21 (2)~9.24 (2)	
173	コオバンシギ	〃 〃 93.9.13 (1)	
174	アシナガシギ	〃 〃 93.7.7 (1)~8.1	
175	キリアイ	生振 (※2) 93.7.27 (2) 生振湿地 8.28 (10±)	
176	コアオアシシギ	生振湿地 93.9.3 (1)~9.10 (4)	
177	アオアシシギ	生振 (※2) 93.7.27 (1) 生振湿地 7.26 (10)~9.12 (9)	
178	タカブシギ	生振湿地 93.6.4 (1)~8.22 (20±)	
179	キアシシギ	〃 93.6.5 (2)	
180	ホウロクシギ	拓北 (※2) 93.8.28 (1)	
181	タシギ	生振湿地 93.7.26 (2)~10.22 (1)	
182	セイタカシギ	〃 93.5.26~30 (2)	
183	アカエリヒレアシシギ	〃 93.7.28 (夏羽♂1)	
184	クイナ	〃 92.6.20 (1) 93.5.29 (2)	○
185	キマユツメナガセキレイ	〃 93.8.20 (1)~9.3	
186	ミソサザイ	生振防風林 93.3.13~15 (5±) 92.4.10 (2)	
187	イスカ	マクンベツ 92.4.19 (4)	
188	オオマシコ	生振防風林 92.3.5 (♂1 ♀4)	

《観察地域の区分標示について》

- | | |
|--|--|
| <p>1) 生振湿地……石狩川左岸生振の小湿地域
(特に※印のついていないところ)</p> <p>2) 拓北湿地……札幌④橋下流部の小湿地(※1)</p> <p>3) 茨戸川浚渫池……(※2)で示す。</p> | <p>4) 茨戸川流域……茨戸川・真勲別流域</p> <p>5) 生振地域……生振防風林を中心とした全域
(註)……上表の中で月日の後の()はその種の個体数を示している。</p> |
|--|--|

探鳥会報告

ウトナイ湖 5.11.14 子バナ・ユウタロウ

きょう、ぼくは、ウトナイこにいったよ。それでネイチャーセンターにいったいのがみたよ。それでたのしかったよ。なかみわとても、おもしろかったよ。へんたいうてのがとってもおもしろかったよ。それでまたいきたいなとおもったよ。

(注 暴風雨の中のウトナイ湖ウォッチングでした。へんたいはビデオのハクチョウ、マガンなどの飛ぶ姿だと思われまます。)

〒065 豊平区北野5条3丁目12-18 知花優方

〔記録された鳥〕アオサギ、オオハクチョウ、ヒシクイ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、ヨシガモ、コガモ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、ミコアイサ、ユリカモメ、スズメ 以上15種

〔参加者〕 10名

ケイマフリに出会った日

5.12.12 荻野 貴美子

新雪が樹々の梢をくまなく被ってまばゆいばかりの朝だ。今日は二台のバスを連ねての小樽港探鳥会である。全身を防寒衣につつま「おはようございます。」と挨拶をかわす探鳥仲間の顔はみな明るく輝いて見える。特に札幌から参加の大勢の人達は、スコープをかついだ足どりにも並なみならぬ意気込みが感じられる。

雪晴れの真青な空に向かって祝津の岬の道を登りつめると、突然海獣の叫ぶ声に迎えられる。眼下に水族館があり、屋外の水槽にトドの巨体がゆりりと動く。私には一つの期待がある。かの余市アイヌ達星北斗の愛したケイマフリを、今日こそこの眼でと。岬の崖のぎりぎりの所にスコープをセットし、海面をのぞく間もなく「ケイマフリ。」の声が上がる。『えっもう出たの。』と気は急ぐがビギナーのかなしさ、双眼鏡にそれらしき鳥影は入らない。続いて「ウミガラスですね。」の声が。『ええっそんなに次々と出られても……。』残念。これもレンズにとらえられず。ため息をつきつつ双眼鏡から目を離し、真下に見える岩礁のあたりに何気なく目を移したその時、小さな白と黒の鳥影が波間に漂うのを確認する。『近い!』今度はうまくスコープに入れることができた。鮮やかに赤い脚が緑の海水を掻いている。『ケイマフリだ!』感動と興奮で心臓がどきどき鳴っている。黒い目のまわりは白く縁どられていて、北斗が短歌に詠んだように罪のなさそうな可愛いヤツ。息を殺しながら見入ることしばし、赤脚のケイマフリは翼を少し開くやいなやついつと潜り、海中を泳いでどこかへ行ってしまった。

昭和初期の頃はここの海にも沢山のケイマフリが来ていただろう。魚を追って。岬を下る道々、私の脳裏には今さっき見たばかりの罪のなさそうなヤツの姿が、一こま一こま

スライドのように映しだされていた。

〒046 余市町黒川町9-60

〔記録された鳥〕ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、ハジロカイツブリ、ウミウ、ヒメウ、トビ、オジロワシ、コガモ、スズガモ、シノリガモ、コオリガモ、ホホジロガモ、ウミアイサ、ウミネコ、カモナ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、ワシカモメ、ウミガラス、ケイマフリ、マダラウミスズメ、ウミスズメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 以上30種

〔参加者〕 77名

今年のはじめての探鳥散策に参加して～野幌森林公園～

6.2.13 久保田 喜代美

今年になって初めての探鳥散策でした。双眼鏡を持ち、スキーウエアで身を包み、足元には歩くスキーを履き、心も弾んで大沢の中央口へ集合しました。参加者もとても多かったです。みなさんも冬の散策を心待ちにしていたようです。リーダーの方の歯切れのよい挨拶、そして和やかに語らいながら出発しました。エゾユズリハコース、大沢コース、桂コースの約5kmの行程を歩きました。はらはらと小雪も舞い、真冬の風情たっぷりの森林でした。真綿の雪にすっぽり包まれ、森林は静寂の中に吸い込まれていました。とても素敵でした。沢山の鳥達と出会いました。樹皮を一心不乱に「コチ、コチ」と音をたててついでにアカゲラ、黒白のシマ模様の美しい羽をしたコゲラ、少し大きめの柔らかい黄緑色の羽をしたヤマガラ、エゾ松林で美しいドラミングを聴かせてくれたキクイタダキ、首下の鮮やかなピンク色したウソ等。肉眼と双眼鏡で夢中になって見入りました。また軽快に木登りしていたかわいいエゾリスとも会えて嬉しかったです。数々の鳥、エゾリス、そしてキタキツネやタヌキの足跡を見つけられ、幸せな休日でした。次の探鳥散策ではまたどんな自然や動物達と出会えるか楽しみです。

〒004 札幌市厚別区厚別南5丁目5-15

〔記録された鳥〕コゲラ、アカゲラ、ヤマガラ、ヒヨドリ、ツグミ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、ウソ、カケス、シメ 以上15種

〔参加者〕 24名

藤の沢探鳥会

6.1.23 工藤 昌代

最初におことわりしておきますが、私は文章書くのが、とても苦手で大キライです。感想文を書いて。と言われた時はどこか遠くへ高トビしてしまおうと考えた程、大キライなんです……。

さて、今回は白鳥園での探鳥会でした。きっと沼か公園のような所だろう。と思ってましたが……。

まさか…、山登りするとは思いませんでしたよ。トン汁につられて行きましたが、運動不足の私には、かなりづらい探鳥会でしたわ。筋肉痛…。

(くそー、こんな事ならトン汁もっておかわりしとくんだった。関係ないけど。)何か今回は、あまり鳥と(私は)出会う事がなかった。おっ見つけた!という鳥は、ハシボソガラスですね。山の中さんざん歩き回って。あとは、屋内でトン汁すすりながら見たカケスとスズメとアカゲラですが…。「最近野鳥が減っている。」と聞きますが、はっきり言って当然でしょうね。

ひかえめに言って、仕方ないですよ。

彼等の住み家やエサを減らしているのは……。

これ以上言うとお前だってそのうちの一人だ、と言われてキリがないのでやめましょう。

明るく明るく。しかし、つかれたけれど山の中。空気が、キレイですねー。これでもっとたくさんの鳥が見れば…と思いつつ、でもあんまりたくさんでもこの私に、覚える事が出来るかどうか……。

鳥頭、と私の事、言う人がいますが、失礼ですよー鳥に。とりあえずハシボソガラスとハシボソガラスの区別は、つくようになれました。ちょっと幸せ。

今回、何とか見かけたかな?という鳥は先にあげた他には、ヒヨドリ(今だにムクドリと間ちがえる。)、オオアカゲラ(とは言っても、あまり良くわかっていないアカゲラとの区別)、……あれ、たしかこの日は、17~18種類って…。いーんです。はじめの頃は、こんなモノです。(何回出たかは聞かないよーに。)でも、山で何度も雪にうまって、ころんでミョーに楽しかったですね。何たって一番印象に残ってるのは、トン汁がとてもおいしくて、また食べたいぞ、といった所ですかね。鳥もおいしくご飯も見れて……ちがいますよーね。鳥も見れて、ご飯もおいしかった。という。とても楽しい探鳥会でした。

〒003 札幌市白石区南郷通8丁目南4-7-304

〔記録された鳥〕アカゲラ、オオアカゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ツグミ、エナガ、ハシボソガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ウソ、シメ、スズメ、ミヤマカケス、ハシボソガラス、ハシボソガラス 以上18種

〔参加者〕 41名

千歳川周辺一泊早朝探鳥会

平成5年5月15日~16日

〔記録された鳥〕トビ、マガモ、キンクロハジロ、カワアイサ、オオジシギ、キジバト、アオバト、カッコウ、ツツドリ、ヤマセミ、カワセミ、アカショウビン、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、キセキレイ、

ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、カワガラス、ミソサザイ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ハシボソガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシゴ、イカル、ニューナイスズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシボソガラス、シメ、シロハラ、以上51種
〔参加者〕 54名

鳥民だより

◆総会のご案内

平成6年度の総会を次のとおり開催いたしますのでご参加ください。

日時：平成6年4月9日(土) 午後2時

場所：札幌市市民会館(中央区北1条西1丁目)

議題：平成5年度事業報告

会費値上げの件(年会費2,000円の予定)

平成6年度事業計画 ほか

◆新年野鳥講演会の報告

新年野鳥講演会が1月8日(土)札幌市婦人文化センターで開催されました。

前半、織田敏雄さん(ミュージックあんどん主宰、日本野鳥の会札幌支部幹事)に野鳥の声の録音のお話をいただきました。

野鳥録音を始めてから現在までの苦労や、ウグイスの地方により異なる囀りのことなど、興味深いお話を、録音テープをお持ちいただいて、実際に聞きながら、説明をうけました。

後半は、会員が持ち寄ったスライドの映写を行いました。佐藤幸典さん、国本昌秀さん、前田博孝さん、山田良造さん、赤石誠二さん、富田寿一さんの6人の方の力作を見せていただきました。

〔参加者〕森田新一郎、住友順子、佐藤幸典、矢野玲子、赤石誠二、山崎カツエ、仲島広嗣、橋爪陽子、道場信子、野坂英三、今野弘、野口正男、久田伸一、田中金作・礼子、太丸リツ、菅沼良三、石橋和子、井上公雄、菅沼郁子、松野有秀、富田寿一、遠藤幸子、柳沢信雄、渡辺紀久雄、荻原俊男、山田良造、新城久、白沢昌彦、牧野洋子、高屋敷征子、富川徹、前田博孝、栢川保・弘子、前田幸宏・節子、国本昌秀、竹中昭雄、本間裕邦・桂子、道場優、戸津高保、佐藤ひろみ、西川喜久世、山田としえ、鈴木雅恵、新妻博、佐々木武巳、和久雅男、永島良郎、難波茂雄、小堀煌治、池田みちえ、大野信明 以上55名

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円(会計年度4月より) 郵便振替 小樽 1-18287
☎060 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465